

令和6年度 3学期終業式あいさつ

皆さん、おはようございます。

1、2年生のみなさん、進級おめでとうございます。

春は出会いと別れの季節といいますが、本校でも、2月28日に第77回卒業証書授与式があり、77期生354名が本校を巣立っていきました。感謝の気持ちの一杯詰まった在校生代表の送辞、お世話になった人たちへの感謝と新しいステージでの強い決意を述べた卒業生代表の答辞、晴れの門出にふさわしい華やかで厳粛な卒業式でした。参列してくれた皆さん、演奏してくれた吹奏楽部の皆さん、部活で77期生を祝福してくれた皆さん、ありがとうございました。また、3月12日には令和7年度入試がありました。倍率は1.44倍、519名が本校を受験してくれました。ただ今年度から出願も合格発表もオンラインになったので、例年の合格発表の歓喜の感動シーンは見られませんでした。しかし、午後からの合格者オリエンテーションでは、生徒会執行部やクラブ員の皆さんが延々と続く花道を作ってくれて、「おめでとうございます」と合格者を笑顔で祝福してくれました。合格者たちの喜びに満ちた顔、心温まる光景でした。ありがとうございました。4月からは、先輩として80期生をしっかりと導いてください。また、この後、オーストラリア研修に参加した生徒たちの報告があります。楽しみにしています。

さて、今日は、私がこれまで教えた生徒の中で最も印象に残っている一人の生徒の話を通じて、皆さんにメッセージを伝えたいと思います。

私は、10年ほど前の春、一人の大切な教え子を亡くしました。享年45歳でした。その生徒は私が初めて担任をした生徒で、勉強はあまり得意じゃない、タバコや喧嘩で何回も停学になって、よく家庭訪問に行った、いわゆる「やんちゃな」生徒でした。でも、その生徒はユーモアがあって、誰にでもやさしく、クラスのリーダーで、みんなから信頼されていました。私もそんな彼が大好きでした。

彼は、高校を卒業して、大手の飲食店チェーンに就職し、頑張って30歳過ぎで店長にまで昇任しました。しかし、40歳を過ぎてしばらく経った頃、長年の無理がたたったのか、急に体に異常を感じて病院に行ったら即入院、白血病と診断されました。それから、骨髄移植などいろいろな治療をしました。私は何回か見舞いに行きました。最後に見舞いに行ったのはなくなる半年前、彼は無菌室に入っていました。私も白衣に着替え消毒して、短時間

の面会が許されました。不思議なもので、教師と生徒は過去にタイムスリップできる。私と彼もすっかり 30 年ほど前に戻って、話をしました。

彼は私に言いました。

「先生、高校生の頃、俺はめちゃくちゃやっていた、停学に何回もなったし、先生に迷惑ばかりかけていた。でも、あの頃はほんまに楽しかった。特に 3 年生の文化祭でやったクラス演劇「ピーターパン」でみんなが一つになれた。ほんまに最高やった。もし人生で過去に戻ることができるのならあの頃に戻りたい。」

「お前、よく卒業できたなあ」と私が言うと、

「確かに勉強は苦手やったけど、授業はちゃんと受けてたで・・ノートもしっかりとっていたし、人の話を聞くのは好きやから先生の話も寝ずに聞いていた。でも、そういう当たり前のことがほんまに大切で社会に出てから活きたんや。ノート書くことはメモをするのに役だったし、何より挨拶したり、人の話を聞いたりするコミュニケーションは社会人の基本やったから、みんなに信頼されたわ・・もう一回授業受けたいなあ。」

そして、彼は「生きたい。年明けにまた骨髄移植に挑戦するから、元気になったらクラス会しよう。娘の結婚式でウェディングドレスを見るまでは死なれへん。生きるんや」と言っていました。

「高校ってホントに楽しいところや。毎日学校に通って授業を受ける。クラブを頑張る。行事に燃える。当たり前のようやけど、本当にそれが大切で、3 年間あっという間。でも人生の中で本当にかげがえのない 3 年間だということを、先生、いま教えている生徒たちに伝えてな」と言っていました。

皆さん、生きるって本当に大変です。楽しいことだけでなく、つらいことや悲しいことも沢山あります。でも、一番大切なことです。そして、皆さんは、今人生の中で本当にかげがえのない 3 年間で最高という最高の舞台上で過ごしています。毎日遅刻をせずに登校する。毎時間の授業を大切にする。部活動、行事に全力で取り組む。友達と笑う。喧嘩する。そんな当たり前のような日常が実はとても大切で、その継続、積み重ねが皆さんを成長させてくれます。これからの皆さんの将来につながっていきます。

最高の舞台上最高の仲間と最高の先生方と、最高の高校生活を作ってください。皆さん一人一人が輝いてください。皆さんの来年度の頑張りを期待して、終業式のあいさつとします。